

学校だより

# 済美



南砺市立城端小学校  
令和5年2月25日

## あいさつで みんなつながれ チームJ

### ◆「城端っ子のじまん」旗が完成

青少年育成市民会議城端支部のご理解ご援助で、「城端っ子のじまん」を記したのぼり旗が完成しました。敢えて自分たちの自慢であると宣言し、工夫した活動に取り組むことで、3つのことを定着させようと、6年生が努力してきました。これら3つの質を高める活動を下級生につなぎたいとの思いが込められた旗です。玄関やホールに常に掲げたり、活動時に手に持ったりして活用していきます。子供主体の活動をつないでいきます。



じまん旗と6年生

### ◆停車して下さったドライバーさんに会釈

過日の出勤途中、神明通りの横断歩道を渡ろうとしている子供の姿が見えたので、そっと停車しました。私の車の様子に気付いた3年生女子2名は、さっと横断歩道を渡り終えると、くるっと体の向きを変え、私に会釈をしてくれました。その子らと玄関に入るタイミングが合ったので、「とてもうれしい気持ちになったよ。」と伝えました。(当たり前のことをしてだけですよ、という反応も素敵でした。) 4月から何度もこのような場面に出会っています。ドライバーさんにお礼の会釈ができる子が増えると、城端地域を走る車の速度が下がり、横断待ちの歩行者のために停車する車が増えるのではないかと、期待を込めて思っています。

### ◆地域の方とつながる挨拶

登下校時や地域で過ごしているときの子供たちの挨拶はどうでしょうか。交通指導の方や見守り隊の方、スポーツ少年団の指導者の方に進んで挨拶しているでしょうか。5年生は、さらに元気で明るい挨拶ができる城端っ子を目指し、新たな活動に取り組もうとしています。その中には、地域の方に進んで挨拶できる城端っ子になるための取組も含まれるはず。地域の皆さまも、登下校時や地域行事の際には、遠慮せず挨拶の声をかけてください。城端っ子の素敵な姿を目にされましたら、学校にお知らせいただくと嬉しいです。(犀川)

### <令和5年3月の主な行事予定>

- 1日(水) 集団登校・地区児童会・集団下校
- 3日(金) 学校集金・卒業を祝う会
- 8日(水) ひだまりくらぶ・よみきかせ(最終)
- 10日(金) さわやかデー
- 14日(火) 卒業式予行
- 15日(水) 集団登校
- 17日(金) 卒業式
- 20日(月) 集団登校(1年生～5年生)
- 23日(木) 給食終了・集団下校
- 24日(金) 修了式
- 27日(月) 学年末休業開始

### 令和5年度の主な行事

※予定ですので変更になることがあります。

- 4月6日(木) 始業式
- 4月7日(金) 入学式
- 4月22日(土) 学習参観・PTA総会
- 5月20日(土) 運動会
- 10月15日(日) 学習発表会



あいさつステッカー

## ぽかぽかコラム 5年生の取組より

5年生は、社会科の学習で「NHK富山放送局」と「イタイイタイ病資料館」に行ってきました。

子供たちは、2学期にイタイイタイ病について調べたいことを決め、各自で調べる活動をしました。分かったことの発表では、「名前は聞いたことがあったけど、こんな近くで悲惨な公害があったなんて知らなかった」「公害から立ち直るためにたくさんの人が努力し、苦労したんだ」ということを話していました。

そんな子供たちは、イタイイタイ病資料館で身近な地域で起きた出来事だからこそ、もっとくわしく知りたいと興味をもって見学していました。写真資料や映像資料、施設の方の説明を聞き、もう二度とこのような公害を起こしてはいけないという思いやSDGsの取組を意識して環境を守ろうという気持ちを高めることができました。

第5学年学年主任 石崎 宏樹

## 教育活動から

スキー学習では、全校元気よく安全に楽しく学習することができました。



## 「聞き合う姿」を求めて

本校では、「考えを聞き合い、自分の学びに生かす子供 ～一人一台タブレットをつかった学習活動を通して～」をテーマとして、授業を行ってきました。

「聞き合う」ということから、今年度は、特に【聞き手】に焦点を当てました。話をしている友達に体を向ける、うなづく、反応するなど、聞く姿勢の基本を改めて指導していくうちに、「〇〇さんと同じで」と、友達の考えにつなげて話す子供が増えてきました。さらに、「〇〇さんの考えを聞いていたら、自分の考えが変わったよ」と自分の考えを素直に見直したり、「〇〇さんは、こう言いたかったんじゃないかな」と友達の気持ちに寄り添って、話を聞いたりする姿も見られるようになってきました。

真剣に聞いて反応してもらえると、嬉しくてどんどん話したくなるものですね。学校では、これからも、【聞き手】に注目し、学校での友達との学びの楽しさを感じていけるよう、考えていきます。ご家庭でも、今一度、「聞く」ことに意識を向けて、お子さんとお話していきませんか。



研究主任 荒井 鮎美